

# カーラッピング市場に新しい風到来 今後に不可欠なオブジェクトラッピング

突然ですが、皆さんにはクライアントや元請け企業から、こんな依頼を受けた経験はありませんか？

「立体物があるのだけれど、内装用化粧シートかマーキングフィルムでラッピングできないか」。なかなか困った話ですが、職人たるもの、頼まれたら何とか応えねばなりません。今回は、多彩な立体物にラッピングをする「オブジェクトラッピング」についてお話ししていきます。

## 国内に広がるオブジェクトラッピングの需要

私がカーラッピングに携わり、約15年ほど経とうとしています。過去にはさまざまな展示会やイベントで、来場者から「あんな物に貼れるか？」とたくさん質問されてきて、そのたびにアドバイスをしたり、実際に貼って見せて要望に応えてきました。看板業界の将来に役立つと思っていたし、カーラッピングを含めた、貼りの仕事が楽しかったからです。

しかし同時に、親しい知人には「カーラッピングはあくまで客寄せパンダだよ」と話していました。もちろん、これには根拠があります。高級車などの資産価値のある嗜好品にラッピングのニーズがあるならば、いずれ多種多様なモノに貼る需要も掘り起こされるのでは、と考えたのです。「貼り」の仕事で、利益が伸びる時代になる。カーラッピングは、あくまでひとつのきっかけに過ぎないという考えですね。予測通り、国内でも徐々にオブジェクトラッピングの注目度が近年高まっています。選ばれている理由としては、現場で作業できる点、短期間の工期で納められる点、異臭や環境汚染も気にしなくて良い点がポイントになっていると感じています。

とはいって、日本に先駆けて海外では、既にさまざまなモノにラッピングをする



円形の木材に、地球儀柄の出力物をラッピング。車両装飾の施工技術を使って、さまざまな素材にメディアを貼る「オブジェクトラッピング」の注目度が近年高まっている

文化が浸透しつつあります。例えば、凸凹がかった天井の内装に、シルバーのメッキフィルムをラッピングしたり、高さ4mほどあるトロフィーのオブジェにメッキフィルムを装飾したりなどです。筐体が巨大で運搬しづらい上に、FRPや木などで作られているため、ドブ付けメッキや蒸着メッキを施すのも困難なケースですね。今までならばメタリック塗装で済ませていた事例ですが、最近はフィルム装飾の方を選ぶクライアントも増えています。

さらに、近年では単色の塗装やデザインに飽きたデザイナーが、IJPでさまざまな柄をあしらったフィルムを出力し、三次曲面筐体をフルラッピングする事例も増えています。今後は、より一層多様な物体にフィルムを貼る時代になり、オブジェクトラッピングは市場をにぎわせていくでしょう。このチャンスを、サイン製作会社の皆さんには、見逃さないでもらいたいと、私は強く思います。

**市場参入に求められるのは徹底した技術力**  
カーラッピングにおいては、積み重ねてきた貼り施工の経験から、一日の長があったサイン業界。しかし、数千万円を超える超高級車のフルラッピングとなると話は変わってきます。多岐にわたるパーツや局面への施工、ボディに一切の傷を許してはいけない点も困難と言えます。現に最近は、ウインドウフィルム施工、コーティングなどを手がけ、車両の取り扱いに慣れているカーディテイリング業者もカーラッピング施工に参入し、成果を収め始めています。それだけライバルが多く、サイン業界以外の専門知識を必要とする分野なのです。しかし、この専門知識という点において、少し不安に感じている部分もあります。

私は昨年から、サイン製作会社に向けて、立体物にメディアを貼るためのノウハウについて紹介するセミナーを地方含めて多数開催しています。そのなかで、非常に優れた腕を持っているのにも関



塗装の代替として、光沢のあるメッキフィルムを活用する需要も増しているという



アメリカンフットボールの優勝決定戦であり、アメリカ最大級のスポーツイベントとも言われる「スーパーボウル」の優勝トロフィーには、メッキフィルムを施した巨大なオブジェが使われた

わらず、情報を持たないゆえに、正しい施工をできていない人が少なからずいるのを、とても残念に思っています。

皆さんには、普通の平面にフィルムをベタ貼りできる腕をお持ちです。しかし、あえて批判を恐れずに言えば、本当の意味で「剥がれない正しい施工方法」を理解できていない人が多いのも事実です。看板業の皆さんには、大なり小なりの工場をお持ちでしょう。また、出張施工に行くのにも慣れていると思います。

幸い、さまざまな素材に出力物を貼るオブジェクトラッピングであれば、まだ国内市場は未開拓です。例えば木材や

FRP、スチールなどへ貼る技術で言えば、前述のカーディテイリング業者にサイン業者が劣るはずもないでしょう。しかし、いつ強力な競合が現れるか分かりません。それに先んじるために、正しい知識が必須なのです。貼り施工の市場をこれ以上他業種に侵食されてしまうのを防ぐためにも、今こそ看板業界

全体で知識を学び、マーケットを固守していくうではありませんか。

またオブジェクトラッピングがサイン業界に適していると考える理由はそれだけではありません。ほとんどのサイン製作会社が、始めるにあたって必要となる設備を既に持っているのは大きなポイントです。看板業の皆さんには、大なり小なりの工場をお持ちでしょう。また、出張施工に行くのにも慣れていると思います。

そして、出力に必要なIJPも大半が保有しているのではないかでしょうか。これだけそろっていれば十分。重要なのは、しっかりと貼れる技術、これだけです。

私は今年も、随時オブジェクトラッピングを題材にしたセミナーやワークショップを実施する予定です。興味がある方は、ぜひとも受講してみてください。きっと、新しい市場の扉が開くはずです。

次号は、私が世界でラッピングコンテストの審査員をして気付いた「客目線」について、話していきたいと思います。

刈谷 伊  
(かりや ただし)

1969年2月3日生まれ。  
89年大学中退後、父の看板業を手伝い始める。07年より、カーラッピング専門のPPF事業部を立ち上げ、車体装飾に注力。日本カーラッピング協会の会長も務める。18年、米・ロングビーチのWrap Olympics優勝など、数々のラッピングコンテストで活躍する傍ら、世界各地で車体装飾のデモンストレーションを実施。各国におけるサイン製作の現場も積極的に視察し、業界の発展に寄与する活動を続ける。

## 資格

- ・職業訓練指導員 第10085号
- ・屋外広告士 第7721号
- ・1級技能士 広告美術仕上げ 第14-061-21-0001号
- ・3M Preferred (US 3M本社認定インストーラー)
- ・3M Knifeless 認定インストーラー US0017号
- ・AVERY DENNISON CWI 認定
- ・HEXIS CERTIFIED INSTALLER GOLD 認定
- ・LLumar PPF JAPAN 認定講師
- ・TWI 認定トレーナー
- ・JAF 国際C級ライセンス

## 主な講師、デモンストレーション実績

|       |  |
|-------|--|
| 2017年 | 中・杭州でラッピング講習会<br>中・上海でPPF講習会<br>日・SIGN&DISPLAY SHOWでセミナーなど       |
| 2018年 | 日・JAPAN SHOPでセミナーなど<br>馬・クラランプールでPPF講習会<br>露・モスクワでコンテスト審査員、PPF講師 |
|       | 米・ラスベガスのSEMAショーで実演   |
| 2019年 | 日・沖縄県広告美術協同組合で講習会<br>尼・スラバヤでのイベントでセミナーなど<br>露・モスクワでコンテスト審査員      |
|       | 日・SIGN&DISPLAY SHOWでセミナーなど<br>米・ラスベガスのSEMAショーで実演                 |
| 2020年 | 日・名古屋モーターショー FESPA WORLD WRAP MASTERS JAPANでヘッドジャッジ              |
| 2021年 | 日・日本カーラッピング協会で講習会<br>日・青森県職業能力開発協会で講習会<br>ほか多数                   |

## SNS

フェイスブック（刈谷 伊）  
Instagram @designlab\_inc.wrap\_japan  
Twitter @tadashikariya

## 株式会社デザインラボ PPF事業部

TEL 501-6023  
岐阜県各務原市川島小網町2150-24  
TEL/FAX: 0586-89-2332

●企業、団体、個人にかかわらず、カーラッピング、プロテクションフィルムなどについての技術講習会を受付中。小企業の海外展開（販売）の実例を交えた講演会、セミナーの問い合わせもデザインラボまで。